

# 令和3年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 高須 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語、数学)

##### 教科に関する調査(国語、数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 生徒質問紙調査

##### 生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

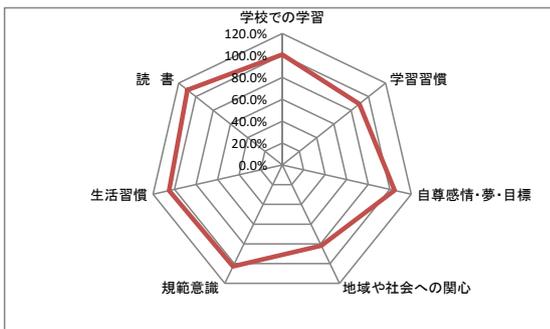
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学)の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	8.8	55
全国	9.0	65	9.1	57

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	領域「書くこと」については、全国平均正答率より上回っていたが、他の3つの領域では少し下回っていた。観点では、「書く能力」は、全国平均正答率より上回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	話し合いの話題や方向を捉える問題、登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する問題	
	努力が必要な問題	質問の意図を捉える問題、相手や場に応じて敬語を適切に使う問題、文脈に即して漢字を正しく読む問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	4つの領域「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」のすべてにおいて、全国平均正答率を上回っていた。観点では、「数学的な技能」が全国平均正答率より下がっていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	関数の意味を理解する問題、事柄の特徴を数学的に説明する問題、相対度数の必要性と意味を理解する問題	
	努力が必要な問題	具体的な場面で一元一次方程式を作る問題、与えられたデータから中央値を求める問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>○読書をしている生徒の割合、生活習慣がしっかり身につけている生徒の割合はとも高い。</p> <p>○「自分には良いところがある」といった自尊感情が高い生徒の割合、将来の夢をもっている生徒の割合は高い。</p> <p>○平日の学習習慣、授業で自分の考えをまとめたり、考えをもとに新しいものを作り出すこと、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることに課題がある。</p>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- ・古文の音読活動に重点的に取り組み、伝統的な言語文化について正しく理解させる。
- ・言語についての知識、理解、技能を高めるために、朝自習や家庭学習で、漢字、四字熟語、ことわざなどの課題に取り組む。
- ・技能向上のための反復練習を授業に組み込む。
- ・方程式において、式から問題をつくる課題を設定する。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・意図的、計画的に課題を出したり、課題の内容を工夫したりして、家庭学習の習慣化を図る。
- ・魅力ある授業で、「家でも勉強したい」、「できるようになりたい」と意欲を持たせる。
- ・家庭学習の効果を実感したり、意義を理解させたりする。